



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA 35-16 DAIKANTYO HIGASIKU NAGOYA 460-0002 JAPAN

国際会長主題 “Service Without Borders” [国境なき奉仕]
 7/27会長主題 “Service Without Borders” [国境なき奉仕]
 西日本区理事主題 “Let’s move forward with conviction” [確信を持って前進しよう]
 中部部長主題 [絆をつよめ、広げようワイズの輪]
 クラブ会長主題 “Keep Our Heart and Kindness” 「思いやりと勇気を持って前進しよう」

2007年9月号

— <今月の聖句> —

知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。
 コリントの信徒への手紙 8章 1節

グランパスホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~ysmen/>

2007年9月例会ご案内

◎第一例会

と き : 9月13日 (木)
 と ころ : 南山YMCA
 時 間 : 19:00~
 内 容 : 南山クラブ合同例会
 ドライバー: 荒川恭次

今年度の目的の一つ。他クラブとの合同例会です。南山クラブとは親交も深く、過去何回も合同例会を行いました。今年も手始めに南山クラブとバーベキュー例会といきましょう。部会3日前。ここで語り合い、リラックスして挑みましょう。

◎第二例会

と き : 9月27日 (木)
 と ころ : 名古屋YMCA
 時 間 : 19:00~

◎中部部会

と き : 9月16日 (日)
 と ころ : 中部国際空港 (セントレア)
 時 間 : 10:30 現地集合

◎根の上祭り

と き : 10月8日 (月) 祝日
 と ころ : 根の上キャンプ場
 時 間 : 別途連絡します

8月例会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド (8月)	
	在 席 者	14名	第 1 例 会	14名	当 月・切 手		ニコBOXノート	
	例会出席者	14名	第 2 例 会	10名	当 月・現 金		感 謝 ファンド	
当月出席率	100%	部 会 他	0名	累 計		累 計		

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

=強い義務感を持とう。義務はすべての権利を伴う=

第一例会報告

[日 時] 2007年8月9日(木)
[場 所] 名古屋YMCA
[出席者] 下村、松原、服部、早川、荒川、坂野、
坂口、佐藤、坂倉、徳田、三井
[ゲスト] 佐野元理事、栗原直前部長、服部メネット、
コメント

今月の卓話は阿部ワイズの富士山登山の様
を語っていただきました。登山用車椅子製作等綿
密な計画と、併せて本企画が親と子をテーマに
したテレビ放映されたこともインパクトがありました。
全編熱のこもった原稿をいただきました。



私の居場所

阿部 一雄

今日は、お時間をいただきましてありがとうございます。

先日は皆様のご協力をいただき、富士登山を終えてまいりました。テレビ放映も無事終わり、やっといつもの生活に戻りつつあります。

会社のホームページに私のブログの「社長ダイアリー」で、富士登山の様子は随時書いてきましたが、今回この卓話では、突然障害を負った者の心理というか、気持ちを皆様にお伝えしたいと思えます。

平成 14 年 4 月、オートバイレースで背骨を折りました。それから 5 年が経ちました。当時私は 37 歳。仕事もようやく自信がついた頃で、多くのお客様の住宅設計をこなす毎日でした。そんな最中でも、わずかな時間を見つけては、好きなオートバイレースに出かけ、その刺激に魅了され続けていました。今思うとその時でも、何か自分の活躍できる場、居場所の様なものを探していた日々だった気がいたします。

オートバイレースは、皆さんご存知の通り生身で鉄の塊にまたがり、時速 270 キロ近い速さのものです。危険というよりも、何か事故が起これば、生死に関わるものです。人は誰でも「自分はそうならない」という過信があり、私も「自分がケガをする、転倒することなんて無い。大丈夫」と、過信をして

おりました。でも、突然不幸はやってきます。レース中、転倒したのです。

サーキットの医務室で、目が覚めて数秒で一生車椅子生活になることを覚悟しました。事故の瞬間や、事故後、病院へ搬送される時、手術前後の記憶はほぼ確かに残っています。痛みや、音、揺れ、寒さ、すべて覚えています。搬送される中で、私は 3 人のドクターへ「私は一生車椅子生活ですか？」と尋ねました。

一人目のドクターは、若く、まだインターンらしい人で「多分・・・覚悟してください。」とされました。私が彼に背骨の骨折以外他は外傷らしい外傷が無かったので「足が動かない! 」と告げた時は、まわりは大騒ぎとなりました。次に救急車で搬送された津山市民病院でも同じ事を聞きました。私のレントゲンを見たドクターの顔が曇るのがよく分かりました。当然その答えは「そうだと思う」でした。



その後ヘリで輸送されることとなり、いわゆるドクターヘリが手配されました。そこで 3 人目のドクターにも同じ質問をしました。こわばった顔で「うーん、そうだと思う」と答えてくれました。私はここで歩くのを諦めました。自分でも驚くほど冷静にその事実を受け入れました。それからの入院生活やリハビリは、とても辛いものでした。なぜなら私の場合入院して治療をすれば治るといったケガや病気とは異なり、治るといったものではなかったからです。治るとは再び歩く、ということでしたから。

車椅子生活を数秒で覚悟はしたものの、リハビリは予想以上に辛く、麻痺の範囲が入院中に上がってしまったり、仕事も本当にやっていけるのか・・・。とても不安な入院生活でした。何とか 4 ヶ月ほどで退院し、退院したその日から仕事に復帰いたしました。

私は運が良いというか、とても恵まれています。普通このような車椅子となったもののほとんどは、職(仕事)を失っています。幸い私には家業があったため、これまで通り続けられ、それが何よりの心のよりどころとなりました。しかし復帰した後も、最初はどうしても健常の時のように物事を考えますから、待ったり、迂回したりすることになかななれずいました。それに自分の体力のなさに、愕然としました。今までは無理をしても何とかできたことがすぐ

に疲れてしまう。

思うように体が動かずとてももどかしく、宙に浮いてしまうようなフワフワした気持ちで、毎日自分の居場所、存在価値が見つからないでいました。私たちのような車椅子生活者がいなければ、エレベーターもたくさんいらなし、バリアフリーも考えなくていい。生きてはいるけど、存在価値が見つからない。仕事があったので、表面的には自分の出来そうなことを、あれこれ考えるほうが優先しましたから、落ち込んだようには見えなかったかもしれませんが。日々葛藤の繰り返しをしつつ、私の居場所探しが始まりました。



そんな折、鈴木一弘さんの所属する、NPO団体の会報誌に、レポートを書く機会を頂きました。それを見た朝日新聞記者が興味を持っていただき、今日皆様へお配りした記事を書いてくださり、愛知版の紙面に掲載されました。またまたその記事をきっかけに、関西TV、東海TVへの出演依頼へと繋がっていくことになりました。東海テレビの企画テーマは「伝えたい」との事でした。それを聞いたとき、何かつながってきているなと感じました。

日本人なら、誰もが一度は登らなきゃ! という富士山に、私もいつか登るぞと思っていました。ちょうど怪我をした年の初め、色々な方に「今年は登りますよ」と公言していました。ところが、その年の春に事故に遭い、そんな思いも忘れかけていました。今回東海テレビの取材の話が来まして、先方の企画テーマが親子の絆を通し、子供へ伝えたいことは何か? ということでディレクターと打ち合わせをしました。私としてもどうやって何を伝えようか、と思いつきに富士登山を思いついたのです。息子も年頃ですから、私が口やかましく言って素直に聞くようなときではありません。それならいっそ、この機会を利用してもらおう、と決心しました。これが、今年の5月でした。

一般的に富士登山の山開きは、7月。山開きと同時に登山する予定を決めましたから、準備期間は、逆算しても1ヶ月半程度です。そこから大急ぎで、

準備を始めました。

まず最初に準備としてとりかかったのは、登山を協力していただけるサポーター探しでした。サポーターといっても障害者が登山をしたケースはホームページなどを探してもなかなか事例がありませんでした。



色々探しましたが見つからず、最後に相談をしたのが名古屋YMCAでした。ここで富士山ガイドの方を紹介していただき、またまたその方々が富士五湖ワイズメンズクラブの現役のワイズでした。私もワイズという事で、一気に話が進み杉本さん、小池さんの二人がサポーターとして同行登山してくれることが決まりました。また後に5合目で宿泊するお話が出ますが、こちらの佐藤小屋のご夫妻も現役のワイズメンで、YMCAはさすがに人脈が広いと感じました。第2に準備を始めたのが登山用車椅子です。これまでに、車椅子で富士山の登頂に成功したのは、2名と聞いています。その中のお一人の方を富士山のガイドを通じて知り合うことができ、その当時の様子や、実際に登山で使った車椅子も視察しに行きました。

もともと富士登山を準備されている方から言わせれば、無謀ともいえる2ヶ月弱の準備期間でした。車椅子で登頂を成功された伊佐さんは、3年がかりでの目標達成だったわけですから、どこまでできるか、やってみるしかありません。専用の車椅子の制作、同行者との調整、自分自身の仕事との調整など、出来る限り精一杯準備して臨む事となりました。登山の前日仕事を終え、河口湖近くのホテルで仮眠を3時間程とってから、翌朝3時に起床し五合目に向かいました。

5時半に登山口に到着し、いよいよ開始です。初日の目的地は8合目の山小屋です。今回特別に登山用に製作した車椅子は、ご覧の通りボートのオールのようなバーを漕いで進む仕組みです。前進のみ可能で、後退はしません。椅子も坂の傾斜に合わせて角度を変えられるようになっています。1回漕いでも10センチしか進みません。本当に辛かった

ですが、富士山の傾斜角度 20 度以上に対し、人力といっても主に腕力が、これくらいでないと漕げないし、実際上がれません。



私とエンジニアはこの程度の進捗と分かっていたのですが、同行者の方はこの姿を見るのは初めてでしたから皆さんには終始付いていただいて、本当に申し訳なく思いました。一体今日はどこまで進めるのだろうと、期待と不安を抱えながらひたすら漕ぎました。スタートから 2 時間たったところでちょうど雨が降り出してきました。実はテスト登山をしているのですが、その時はバーが折れてしまい、まったく登れなかったときがありました。本番は、その場所を無事通過し、6 合目に到着。その時点で 9 時半、スタートから 4 時間が経過していました。ガイドによれば、5 合目から 6 合目は、歩けば 45 分の道のりと言われてしまいました。再び進み始めて、今度は 30 度近くある急坂に差し掛かり、さらにタイヤがスリップして思うように進まなくなりました。200 メートル進むのに 2 時間を要してしまいました。

しばらくゆるい坂を先に進む。6 合目からは登山道を離れ、岩場や階段が無い下山道を使いました。しばらくすると、またまた急坂が登場しました。そこをクリアするまでに 1 時間掛かり、ここで 15 時。6.3 合目でした。このままのペースだと、予定していた 8 合目山小屋まであと 12~14 時間はかかってしまふということ、5 合目と 8 合目の間には山小屋が一つも無いことからやむなく富士山ガイドのアドバイスに従って、スタート地点の 5 合目に引き返しました。

宿に帰って、もっと先に進むつもりでいた自分に、とても落胆し、また同行して下さった方々に申し訳なく感じました。この日これ程富士山が大きく感じたことはありませんでした。

登山、二日目。同じく、3 時に起床、5 時半からスタートです。2 日目のスタートは、昨日到達した 6.3 合目からとしました。早速今回で一番の急所となる長い急坂が待ち受けていまして、最初の 500 メートルを進むのに 4 時

間を要してしまいました。

前日までの直線的な登り道と異なり、ここからはつづら折れとなるいくつもの坂を、坦々と登ることに。頂上へは 47 回カーブがあると聞きました。経験者ならご存知の通り、このあたりの道は、足首まで入りそうなさらさらとした石混じりの滑りやすい砂地です。傾斜角度は 20 度を越えていそうで、歩いて居たら足がとられそうなところだから、車椅子ではスリップしてなかなか進まないのです。そんな時 7 合目のトイレが見えてきた。さすがに高地で酸素が薄いせいか、体が重たくなりうまく動けなくなりました。



何度も挫けそうになりましたが、同行して下さった方々や支援、応援して下さい下さった方々、留守を守る社員の事を考えると力がまた湧き出し、前へ前へと進み、遂に 7 合目に到着しました。ここまで朝から 7 時間以上漕ぎ続け、13 時。このままだと 8 合目の宿までまだ 10 時間以上かかる計算です。

今日 8 合目まで到達出来れば宿もあるため、3 日目、頂上にアタックのチャンスが見えてきます。

あと 2 時間、15 時まで行ける所まで漕いでその地点でどうするか、様子を見る事として更にゴールの 8 合目を目指しました。もう時間と自分の体力との勝負です。

タイムリミットの 15 時を迎えました。7.5 合目です。ここから 8 合目まではまだ時間以上かかるということで、今日のように翌朝同じ場所まで登り再チャレンジするのは厳しそうだと自分でも不思議なくらい冷静に判断をしました。やむを得ないが、ここで今回の登山を終えることに決めました。結果は 2 日間で 18 時間以上漕ぎ、7.5 合目になりました。

皆さんに感謝の気持ちを伝えようとしたのですが、思わず感情が前に出てしまい、言葉になりませんでした。負け惜しみではありませんが、何も 8 合目や登頂することがゴールではないような気がしました。今の私にとって、7.5 合目は現時点の私にとっての頂上かもしれないと思いました。一生の内が一番の試練と一番の財産をいっぺんに頂いた忘れられ

ない日となりました。

今回は富士登山が決まったのが一ヶ月前の5月中旬。登山用車椅子製作期間に至ってはわずか10日です。これを考えると最初のトライには自分なりに、よく出来たな・・・と思いました。



今は、もう来年に再チャレンジに向けて、準備を始めています。来年は社員みんなで挑もうか？一緒に登ろうといただく方が居ますので、車椅子の改造をしてチャレンジしようと思っています。

私はこの登山を通じて皆さんに「勇気」と「人への感謝」「挑戦心」を伝えたいと思いました。障害者になって5年。今回のチャレンジは、私の居場所探しの、ひとつの節目を迎えたと思っています。大勢の方の協力もあって、本当にここまでやってきましたから、感謝の気持ちを忘れてはいけなと、更にその思いを強くしました。それに、障害のある私でも何か世の中の役に立てるという実感が湧き、本当に嬉しく思いました。



ケガをして「歩けなくなるな」と思ったとき、今回登山を終える決断をしたときの気持ちは、似ているかもしれません。諦めないことが大切なきもありますが、現実を受け入れて、その状況に決断することで次の展開が開けることもあります。皆さんも仕事や日常生活、人生でそういった経験や決断をされたことが何度かあると思います。私は、ケガをしたときとこの登山でその経験をしました。

私自身がこうして話したり、成功しなかったチャレンジでそうしてみたことを聞いてくださった方が「自分もやってみよう！」というきっかけになれば幸いです。

今日は長時間ご清聴いただきまして、ありがとうございました。



※本報告のテレビ収録データをご覧になりたい方は担当まで申し出てください。

日和田火祭り



8月4日 土曜日

台風が週末に接近すると言う様な1週間で、非常に気をもみました。毎年のように日和田の火祭りが8月4日に開かれました。台風一過の晴天を期待してましたが、あいにくの曇り空で日和田の火祭りは雨の覚悟をしていました。毎年恵那のSEで集合し一路日和田へ出発・・・。今年は景品も高額消品を抑えましたので、少しは気が楽なのですが・・・、参加するにはそれなりの成果を期待します。昼食を高原食堂でとの計画でしたが、大繁盛の為 大勢の我々は食事が出来ませんでしたので、会場で出店の設営を準備をしながら、坂口メンの食事の到着を心待ちにしていました。日和田名物Y.M.C.Aゲーム場の開場となり、後はお客さん待ち・・・。

その後坂口メンも到着、テントの裏では即席キッチンが出来、色々な料理が次から次へとバラエティーに富んでいます。

天気も心配していたような事も無く、順調に進みましたが、今年はお店も心なしか少なく感じられました。それでもお客さんはぞくぞくとゲームに参加してくれましたので、景品も品薄になり面目を保ちました。

毎年の事ですが参加していただきましたメンバーとゲスト、YMCAのスタッフには感謝いたします。

早川 政人



第二例会報告

[日 時] 2007年8月23日(木)

[場 所] 名古屋YMCA 19:00～

[出席者] 三井、坂口、徳田、坂倉、下村、阿部、荒川、松原、早川、服部

[議 題] 中部部会の打合せ

- 1 プログラム内容の確認
- 2 プログラム作成の詳細と期日
- 3 式典各スピーチの依頼について
- 4 当日の流れと役割について
- 5 会場誘導の方法について
- 6 30日現地にての打合せについて

以上等について議論されました。

松原

鈴木ワイズ送別会

名古屋ワイズメンズクラブ8月例会
鈴木武二君ご夫妻惜別例会

坂倉 洋

2007年8月13日(月)に表記例会が名古屋港イタリア村 ピッコラ・ベネチアで開催されました。この例会は、長年名古屋YMCAなどでご活躍された鈴木ご夫妻が新潟に転居されることになり特別例会として開催されました。

参加者は名古屋クラブを中心に、東海・南山・プラザ・グランパスの各ワイズ他ゲストなど60余名で、長井メンのギターと橋爪メネットの歌の惜別演奏などがあり、ほのぼのとした中に、笑いあり・拍手あり・涙ありの大盛会の例会でした。

鈴木武二氏は、私が小学5年のときに名古屋YMCAに出入りするようになった時の総主事で、以来私の心の中では現在までずっと総主事でした。この例会に出席させていただけたことに感謝するとともに、この例会が来年・さ来年いやずっとずっと先だによかったなあと思いました。





DBCコーナー

名古屋グランパスの皆様

暑い夏皆様如何お過ごしですか。

今期よりとつかクラブの会長をさせていただいて居ります人見茂幸です。昨年6月迄東京クラブよりとつかにお世話になりました。

湘南の海を目の前に遠く霊峰富士山を眺める時今生きてる幸福をしみじみ覚え、Ysに居る喜びをひしひしと思いおこし、熱きYs血潮が湧いて明日への活動の源となっています。

Ysの活動は人の交わりが中心です。20数年以前名古屋の鳥居一良Ysが又大阪の岩越重雄Ysが特別に親しくご指導下さり、今日在るを覚え唯々感謝在るのみです。Ysの交わりは学歴職歴財蓄ではありません。こよなくYMCAを愛する人の交わり心の交わりこそがすべてです。人生海あり山あり谷ありです。

いついかなる時も信じあえるのはYsの友です。頼りになるのはYsメンです。一度しかない人生を胸張って堂々とYsライフに徹し楽しく愉快地に日々の歩みを続けましょう。

悩み苦しきあるのが人の世の常 あって当たり前でそれがすべてを楽しみ自ら克服していく時人は豊になるのです。

今私達はとてつもない企画をたて、富士山の西麓に在る13万坪の牧場跡地を購入して、富士山YMCAグローバルエコビレッジと銘打って、青少年野外活動の基地として、YMCAに連なる多くの子供達の夢の実現に前進しました。

すでに5月9日メインホールの献堂式を行い、此の夏は多くの子供達が朝霧高原の朝を迎えました。

素晴らしい景勝の地でグランパスの皆様と高原の空気をいっぱい吸って楽しい交わりができればと願っています。(DBC合同例会)

折しも2010年国際大会日本開催が決定しました。おそらくメイン会場は横浜になるだろうと予想しています。その節は是非ご参加いただき、大会を成功させる為ご協力くださるようお願い申し上げます。

2007年8月13日

横浜とつかクラブ会長 人見茂幸

そ の 他

1. 今月の誕生日

happy birthday

下村 明子 (2日)

坂倉 洋 (6日)

松原 誠 (24日)

荒川 恭次 (25日)

吉田 和枝 (29日)

congratulation!

2. 西日本区強調月間

9月 Menettes

メネットの親睦とメネット会の独立強化年です。メネット同士の親睦を深め、メンを支える基盤を強化し、活性化をしましょう。

林 成子 メネット事業主任

3. 例会出席状況

	日和 田火 祭り	8月 第一 例会	8月 第二 例会	メ キャ ップ
阿部		○		
荒川		○	○	
井川				
坂倉	○	○	○	
坂口	○	○	○	
佐藤	○	○		
下村		○	○	
徳田		○	○	
服部	○	○	○	
早川	○	○	○	
坂野	○	○	○	
松原	○	○	○	
三井	○	○	○	
吉田(一)				○
吉田(正)				○